

公開シンポジウム

東京電力福島第一原子力発電所事故による放射能大気環境汚染 —これまでとこれから—

趣旨

人類史に残る東京電力福島第一原子力発電所事故による放射能汚染は、復元できない環境汚染を地球規模で発生させた。事故後 10 年が経過し、これまで多くの研究が実施されてきたが、その成果をきちんと残すと同時に、課題を明確にし、研究を継続することが学術的には重要になっている。一方、その成果を一般の人々に理解していただき、原子力事故の教訓として伝えていくことも重要な課題である。そのためには専門家でない人々にも理解できる情報ソースが必要で、国民一人一人が科学的根拠に基づき、事実を認識し、原子力事故を理解しないかぎり安心は得られない。安心の基本は自己の納得に依存しているからである。

「安全神話」や「原子力村」は国や企業が作ったものではなく、私たちの無関心がなした結果である。一人一人が社会リスクに向き合うことは、生きていく上で不可欠な課題である。科学的に事実を理解することは容易ではないが、自己の安心を得るために向き合って頂きたいと願っている。その先には、必ず科学的な安全・安心な社会の創造が実現できるはずであり、そのことが誰もが望む原子力発電事故の共通な教訓となるはずである。このシンポがその一助となることを期待して開催する。

場所：ビックアイ 7F 大会議室（福島県郡山市駅前 2 丁目 11 番 1 号）

*Zoom で配信します

日時：2021 年 3 月 20 日 13 時 30 分から 16 時 30 分

主催：大気環境学会放射性物質動態分科会

プログラム：

- ① 鶴田治雄：放射性物質の大気への放出・拡散の実態
- ② 渡邊 明：放射性物質の大気中濃度、降下量の変動
- ③ 篠原直秀：放射性物質による屋内汚染
- ④ 大原利眞、反町篤行：放射性ヨウ素による呼吸由来被ばくの実態
- ⑤ 梶野瑞王、森野悠：放射性物質の輸送・沈着モデルの進化と有用性
- ⑥ 井上智博：自治体の取り組みと今後の課題
- ⑦ 総合討論

参加費：会員、非会員ともに無料

Zoom 配信について：

会場は感染症対策のため入場者数が 1/2 (80 名) に限定されています。このため Zoom 配信を予定しています。配信を希望される場合には、お手数ですが 3 月 15 日までに [tohara\[at\]nies.go.jp](mailto:tohara[at]nies.go.jp) ([at]を @ に変えて下さい) まで e-mail をお送り下さい。